

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

氏 名	高 雲基
Name	
所属機関(派遣元)	韓国 漢陽大学
Affiliation (Home Organization)	
現在の職名	国際文化学部教授
Position	
招聘期間(日本への入国日から出国日)	2024年7月13日～2025年2月28日
Invitation Period (from the date of entry to departure)	
専攻	韓国古典文学
Field of Research	
ホスト教員氏名と所属学部研究科等	牧野淳司 文学部
Name of host teacher and affiliation at Meiji University	

<外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Research Theme
朝鮮時代の日本通信使使行における創作素材の発掘
②研究概要 / Outline of Research
朝鮮時代、12回にわたって行われた日本通信使に関する記録・文学作品の調査研究を行った。具体的には、明治大学図書館と国立国会図書館に所蔵される朝鮮通信史関係資料を調査した。入手した資料について、分類・整理を行い、韓国語訳を作成した。さらにそれらの価値について、関係資料を参照しながら考察した。 朝鮮通信史関係資料については、従来から知られているものも多い。しかし、これまでほとんど考察されてこなかった資料があることが分かった。網羅的調査を行うまでには至らなかったが、重要な資料を調査することができた。また、韓国に残されている資料について、日本に残されている関連資料とその研究文献を参照することで、より客観的な検証を行うことができた。資料の調査と研究を行う際には、朝鮮通信史関係資料から浮かび上がる様々な物語(ドラマ)に注目した。 たとえば、1719年の通信史の記録の一つである鄭后僑『扶桑紀行』には、藤沢に泊まった際に相模国に伝わるものとして聞かされた奇妙な話が記録されている。それは忠臣蔵(赤穂浪士四十七人)の物語と類似する内容であるが、細部が異なる。どうして変容が生じたかを、関連資料とその研究を参照することで検証することができた。物語が伝播するに従って変化した部分と、物語を記録した朝鮮通信史が自身の関心(日本の風習や日本人の死生観)に従って記した部分とを選別していくことができた。 今後、朝鮮通信史関係資料から浮かび上がる物語(ドラマ)について、歴史的検証を重ねていくことで、現代の文化コンテンツ(映画、ドラマ、ゲーム、アニメなどの素材)として活用できる道を探ることができるであろう。
③招聘期間中の研究活動の実績 / The research results as Guest Professor・Guest Scholar
2024年12月1日に行われた国際研究集会「交響する古代」(明治大学日本古代学研究所主催)において、「朝鮮通信使の使行録に現れた‘四十七士’」と題する講演を行った。朝鮮通信史が記録した四十七士の物語とそれに関係する記述について、各種資料を参着しながら考察したことを報告し議論した。 明治大学で毎月開催されている「韓国漢文小説を読む会」に参加し、韓国漢文独特の言い回しや、朝鮮時代の風習について助言を行った。日本で行われている研究会で提示される資料や作品理解のあり方に触れることで、日本と韓国の研究者では、注目・評価する箇所の違いがあることを知ることができた。 大学の後輩であるハン・ガンが2024年にノーベル文学賞を受賞したことをきっかけに、氏の作品について日本文学研究者と懇談することができた。

